

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510
TEL : 0838-21-7765
e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp
HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hg-geo/>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会 事務局

【報告】日本ジオパークネットワーク全国研修会に参加して

ジオ支援員 樋口尚樹

1月24日(日)・25(月)の両日、石川県白山手取川ジオパークで開催された研修会に参加しました。研修の内容は、「他者(よそ者)の眼差しを通して、見知らぬジオサイトのジオツアー案を作ろう」というものでした。私が参加したグループは、白峰というジオサイトが対象地域です。白峰は石川県の白山麓に位置し、江戸時代から明治にかけて養蚕業で栄えた山村集落で、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。全国でも有数の豪雪地帯で、この日も1m近くの雪が積もり、まさに雪まみれの研修会となりました。

白峰の基盤を作っている大地は、日本海が形成された際に大陸から分かれてやって来たものです。毎冬、大陸から寒気が日本海上で湿気を多く含んだ雪雲となり、白山にぶつかって山麓の白峰にたくさんの雪を降らせるのです。この日も、屋根の雪下ろしや道路の雪かきをしている姿を見かけました。他者の目からは、白峰の人々は雪との戦いを強いられていると見えますが、雪は白峰の人々にとって決して負の要素ではなく、農業用水や生活用水として、白峰の暮らしや生業に恵みをもたらす財産なのです。わずか二日間でしたが、雪と共生している白峰の人々の生活を垣間見ることができました。私たちのグループが立てたプランは、白峰の豪雪をもたらす大地の仕組みと、そこで暮らす人々の生業の歴史を知り、雪中の暮らしや生業を実際に体験し、民泊を活用して地域の持続可能な発展を図ろうとするものでした。日ごろ目にする何気ない当たり前の風景や事象が、他者が見ればとても珍しく価値あるものだと気づかせてくれることが多々あります。今回の研修を通して、萩ジオパークに対する他者の気づきや意見を大切にするとともに、萩ジオパーク内での各ジオサイトの地域間交流を深めていく必要を痛感しました。



(雪かきの様子を見学)



(白峰の集落を巡検)

萩図書館ライブラリーセッション 1月30日(土) 13:30~15:00

” 京都盆地を巡る大地の豊かさこそ、平安京千年継続の理由 ”

至誠館大学 原田憲一学長によるセッションは、演題がジオパークに関係するとあって、座席を増設するほどの盛況でした。講演では都(みやこ)が奈良から京都に移り、千年の間継続した理由について、地学研究の視点から分かりやすい説明がありました。最初に、萩で進めているジオパーク構想が、地質学をベースにして人々の営みの結果である文化や文明を研究する学問=文化地質学の応用である事に触れ、ジオパークでは市民の意識の高まりが重要であることを指摘されました。平安京の話題に入り、長い持続の原因が京都盆地と奈良盆地の、いろいろな資源のちがいにあります。河川や地下水を含む水資源、森林、陶土や石材、魚介類などの豊かな資源、陸路や水路を使った物流ネットワークの発達など、あらゆる点で優っていた。まさに「京都盆地を巡る大地の豊かさ」が、「平安京」悠久の大きな理由であることを説明されました。最後に「理屈が分かると生活も豊かに、ものを見る視点も豊富になる」との言葉があり、一同感動のうちに閉会しました。



大井地区教育講演会 1/31（日） 大井公民館

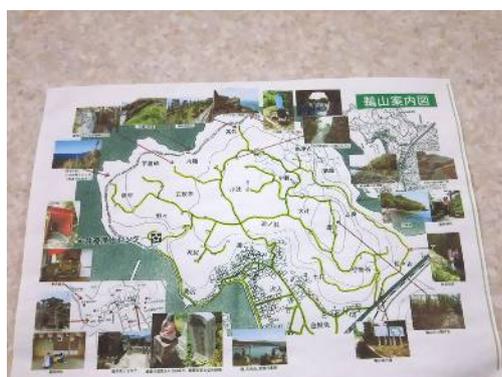
身近なジオサイトから、“ジオパーク”を学ぶ

1月31日（日）、大井公民館において、大井地区教育講演会が開催されました。萩ジオパーク構想と大井地区の大地の遺産について学ぶ、として推進協議会事務局の伊藤が講演をしました。大井地区の皆さんのほか、大井中学校の全校生徒、また地区外からの参加者もあり、会場はいっぱいとなりました。

大井地区は、縄文時代の遺物が発見されており、氾濫する大井川と付き合いながら、古代から人が住んでいた興味深い場所です。阿武火山群の火山が3つ（羽賀台、七重、鶴山）あり、火山の恵みを受けている場所もあります。羽賀台は、玄武岩の溶岩の上に安山岩が覆う2段の溶岩台地です。玄武岩の溶岩は柱状節理を作り、阿字雄の滝として知られています。名水百選に選ばれた三明戸の湧水は、羽賀台の溶岩台地が濾過した水です。七重は地形図を見ると、溶岩が向きを変え、2回流れた台地であることが分かります。台の上には水田が広がり、神社の灯籠には角閃石を含む地元の安山岩が使われています。鶴山の海岸近くでは、江戸時代に石を切り出していた矢跡（ノミの跡）が見られます。昔から地元の人たちに知られる「噴火口跡」には、かつてスコリア丘（軽石様の噴出物が積もったもの）がありました。保水性と水はけの良さを併せ持つスコリアの土壌は柑橘栽培に適し、夏みかん畑として利用されてきました。

足元に広がる大地にこそ、学びのスタートがあるのです。

（右上：阿字雄の滝の柱状節理 右下：事務室に掲示された鶴山の案内図）



第4回ジオパーク講座 2/7（日）：須佐公民館

講師：山陰海岸ジオパーク

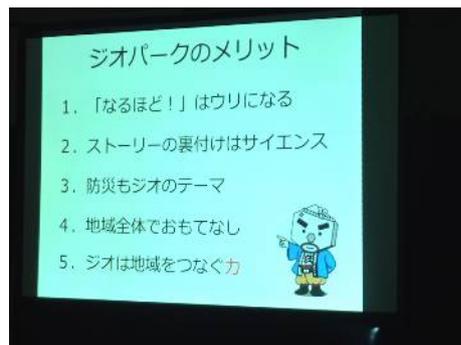
「ジオパークの活用法～ジオパークで地域を元気に」

今井 ひろこ 先生

2月7日（日）、須佐公民館で（一般社会法人）須佐おもてなし協会の設立記念を兼ね、第4回ジオパーク講座を開催しました。今回の講師は、山陰海岸世界ジオパーク認定ガイドであり、ジオパークを足がかりに起業を考える人やNPO法人、旅館等へのコンサルティング業を行っておられる今井ひろこさんでした。「ジオパークの活用法～ジオパークで地域を元気に」と題して、講演をいただきました。ジオパークとは？、何のために取り組むのか、といった疑問に答える内容で、山陰海岸ジオパークでのビジネスの事例も紹介されました。「足元にこそ『お宝』がある」、「ジオパークは漢方薬」、「地域づくりは30年計画」、「温故『地』新」など、多くのキーワードがありました。

また、講演外の時間では、須佐及び萩地域が「ジオパーク足りえる場所であるか」、現地を見ていただきました。その結果、先生のブログで7回にわたり紹介していただけるほど「おもしろい場所」と評価をいただきました。反面、「ジオパーク活動が目に見えてきていない」、「市民への周知が不足している」点が、大きな課題との指摘を受けました。ご自身が地元・香美町で推進員をしていた時は、100回以上の出前講座をこなし、新聞等広報活動も重視していたとのことでした。

萩ジオ推進室としましても、皆様の元に積極的に出かけて、ジオパークのお話をさせていただこうと思います。お気軽に疑問をお寄せください。



（右上：参加者に熱く語りかける今井先生 右下：ジオパークのメリット5点）